



1年をふりかえって

札幌組副組長 野口宗英

昨年4月より、再任された海野組長二期目の執行部に副組長として新たな気持ちで組のためお手伝いをさせていただき、早くも一年が過ぎようとしています。組内の皆様には若輩者を暖かく見守っていただきましたことお礼申し上げます。

庶務（文書作成等）と基推委組織六部の中で僧侶部・門信徒部を担当しておりますが、性格的に呑気なものですので皆様へのお知らせやご案内の文書にお見苦しいところがあったのではないかと心配をしています。札幌組・基推委2003（平成15）年度の目標で「一步前へ」とあります。各部の推進事業活動も従来の活動を引き継ぐだけでなく新しく視点を変え、各部連携しての推進事業活動へと移りつつあると思います。従来のものを変えることは難しいことですがご協力をお願いします。

「聞く」という漢字はほかに、聴く・訊くとありますが、他の人から聞くときは、何が語られているか、どのように言われているか、どんな感情が伝わってくるか、なにが必要とされているか十分注意を払って聞き、お互いに相手の気持ちに焦点を合わせ、一方通行でなくしてお互いの悲しみや怒りや寂しさを分かり合える札幌組を目指したいものです。

組 基 推 委 の 動 き

連 研 部

13期札幌組連続研修会（以下：連研）が平成16年1月31日より本願寺札幌別院で始まりました。当日は午後3時集合と御案内しておりましたが、時間前から緊張した面持ちで受講生がお集まりになりました。3時過ぎからのオリエンテーションの後、開講式を行いました。

札幌近郊から約35名がこれから一年間、浄土真宗のみ教えについて学びあっていきます。

第1回目の連研は 善住寺住職 藤井孝至氏を講師として迎えテーマは「宗教について」を学びました。講師の問題提起の後、それぞれの受講生がこの日初めて顔を合せず他の受講生と班に別れてそれぞれの自分の思いを話し合いました。

話し合われた内容は以下の3点です。

1. 学歴が高い人ほど無神論者が多いのはなぜか？
2. 最終的にはどのも宗教も皆同じなのか？
3. 普段、何をあて頼りにして生きているか？

約1時間の活発な話し合いの後、各班の代表者が班から出た意見を受講生の前で発表し、引き続き受講生からの意見を踏まえてまとめの講義が行われました。

研修終了後の受講生は安堵の表情で満ちており、早くも次回の連研を楽しみにされていました。



僧 侶 部

平成16年2月3日、札幌ロイヤルホテルを会場に平成15年度「僧侶研修会」が行なわれました。

ご講師には、ご本山より式務部々長の儀正見師をお迎えし「勤式集について」と題して、39名の組内僧侶参加のもとに開催されました。

今回の研修では、ご講師より法要の出仕前の意識の重要性や、おつとめの一字一句、一つ一つの変化する流れの大切さを実践を交えて学びました。

また、参加者からは、このような研修は継続的に開催してもらわないと実践に役立つので、今後、定期開催を願うとの声も上がりました。



婦人部

平成15年度 札幌組仏教婦人会連盟 一泊研修会

時 平成15年12月9日から10日
 会 場 定山溪ビューホテル
 講 師 本願寺布教使 留萌組 西嶋寺住職 藤 順生氏
 テーマ 『いのち』

毎年恒例の「札幌組仏教婦人会連盟一泊研修会」が12月9日（火）から10日にかけて、定山溪ビューホテルを会場に、22ヶ寺・126名の各寺仏婦会員の参加により開催されました。

今年度の札幌組其推委の年間テーマであります、『いのち』を学びのテーマとして、講師に留萌組西嶋寺住職藤 順生氏にご出講頂き研修致しました。讃仏偈のお勤めに始まり、海野札幌組長のご挨拶に「自分をいとおしいと思わない人はいないでしょう。他のいのちを大切に…」との問いかけの言葉にうなずきながら、ご講師の藤先生の『いのち』についての問いかけと仏教でのとらえ方の講演をいただきました。その後、10人ほどのグループに分かれ分科会にて、今日のテーマの『いのち』や各寺の仏婦活動について話し合われました。

一日目の研修が終わり、130人での大懇親会で、楽しい一時が過ごされました。

二日目は、前日の分科会報告書により、ご講師の藤先生よりまとめの講義をいただき、2日間にわたる研修会を終了致しました。

参加者の方々の「愉しく研修させて頂きました」「分科会形式をとり全員が参加している研修となった」、「研修も懇親も良かったです」「有り難うございました」とのご意見を寄せて頂き、担当の婦人部としても嬉しいことでありました。今後も参加者の方々より良い研修が出来ますように取り組んでいきたいと思っております。



寺族婦人会 新年会開催される

去る、1月28日午後6時から寺族婦人会の新年会が、17名の方々の参加により札幌全日空ホテルにて開催されました。

海野組長のご挨拶、長尾会長のご挨拶により開会され、おいしい料理に舌鼓をうちながら、楽しいゲームで一時を過ごさせて頂きました。

寺族婦人会研修会

去る2月18日、安楽寺様を会場に、9名の参加により「簡単な懐石料理と着物の着付け教室」の研修会が開催されました。

料理講師に安楽寺婦人会長であります粟井幸子様にご依頼し、説明と調理をお願いし、着付け講師に空知南組報恩寺坊守辰田慶子様をお迎えし、着物を着る機会が多い坊守さん方が真剣に着付けを学び、着飾った姿にて、食事をいただきました。食事の内容は、信玄弁当の容器を使い、作法といただき方を教え頂き、参加者の皆様は、お寺に於いての良い参考になったときれいなお姿で喜んでおりました。

門信徒部

平成15年度札幌組総代研修会開催

平成15年11月18日札幌組総代会及び門信徒部合同主催により門徒総代会が札幌グランドホテルにて開催されました。

午後2時30分開会に続き勤行そして、札幌組々長海野英爾師の組長挨拶、総代会々長沢田清一

氏の御挨拶の後、竹田和雄氏の司会のもと日程説明その他があり研修講義に入りました。

御講師は大阪教区島下組大光寺御住職清岡隆文師を迎え、テーマは“念佛に生かれて”（親鸞聖人90年の御生涯）の講義でありました。又清岡先生は佛教婦人会総連盟の講師、中央佛教学院の講師を歴任されております。意義ある講演に参加者一同真剣に聞き入っておりました。今回は札幌組46ヶ寺の寺院中21ヶ寺86名の出席を得まして午後5時に研修会が終了致しました。

引続き午後5時30分より同所に於いて懇親会が催され、和気合々の中親睦を計りその会が盛会に無事終了致しました。

今回の研修会は組46ヶ寺中約半数の参加寺院と云うことで出来る事なら全ヶ寺参加を願っております。最後に総代会役員、門信徒部員の皆様に御援助、御協力を賜り無事終了致しましたこと厚く御礼申し上げます。



■嫁いでからの思い■

何も知らないで、深く考えもしないでお寺に嫁いで、『本当に御信心をいただいたとき、私は念仏申したい』などと、生意気なことを言っていたのを思い出します。そんな私が、三十有余年かかって、手を合わせば「南無阿彌陀仏」と申させていただくまでに、育てていただきました。今は亡き前住職、前坊守、また御門徒の方々の辛抱強いお育てのおかげで、本当にしみじみとありがたいと思います。

■これからの抱負■

今迄、ずっと肩を張って生きてきましたが、これからは、自然体で歩みたいと思います。ただ、以前、仏教婦人会季刊誌くめくみに書かれていたことを課題にしていきたいものです。「寺の年間行事を滞りなく終えるだけで、勤めを果たしたつもりになっていませんか」行事に追われて日暮しするのでなく、出来るだけ

多くの方がみ教えに出会えるよう、縁づくりに努めたいと思います。



大乗寺坊守
打本 信子

う ち の 坊 守 さ ん

■大念寺あれこれ（思い出など）■

月日の過つのは早いもので私が大念寺に嫁いでから三十有余年になります。

住職は樺太から私は中国（旧満州）からの引揚げ者でしばらくは大変でした。

前住職、前坊守の苦勞がしのばれます。

前住職が昭和三年に樺太に渡り泊居にて信行寺（現大念寺）を再興し、本山より御本尊を入仏し、昭和二十年の敗戦まで布教活動に力を入れておりました。

私は結婚してからも道立整肢学院、札幌女子高校に奉職し、前坊守が往生する二、三年前に退職し、お寺の仕事に専念するようになりました。勤めている時にはボランティアのクラブの顧問で土・日にも出かけることが多く、お寺の中の色々な仕事は出来ませんでした。

御門信徒の多くは樺太からのつながりで市内にちらばってます。

■婦人会活動■

婦人会活動は割合さかんで行事のたびにお斎を出しますので婦人会の方々は前の日の準備から、いそがしく感謝してます。

■これから望むこと■

- 1、諸行事を立派に達成し活性化したい。
- 1、ビハール活動を体力のつく限りつづけたい。
- 1、出来る限り病床の檀家さんのお見舞をしたい。
- 1、若院が結婚して一人前になる
- 1、娘の孫が明るく元気な子に育ててほしい。

皆さん色々ありがとうございました。



大念寺坊守
久朗津 静 慧

ニューフェイス

2002年の春に自防に戻り、住職・前住職と共に法務を手伝わせていただいております。

1977年3月22日生まれで、現在27歳。

自防に戻るまでは社会人として働いておりましたが、なにぶんにもお寺の事・社会経験が不足している為に皆様にはご迷惑をお掛けする事やお世話になる事があると思いますので、宜しくお願い致します。

尚、正信会にも昨年の冬より入会させて頂いており、今後皆様方と顔を合わせさせていただく機会も増えると思いますので、少しずつでも皆様と打ち解けていける様、宜しくお願い致します。

勝円寺

上山 知 昭



千歳市、秀法寺、宮川証法です。千歳での生活も4月になれば6年目となります。

今私は、ある時は学生として、保育について勉強し子どもたちとたわむれ、またある時は僧侶として多くの方々に出会いながら歩まさせてもらっています。

皆様にはご迷惑をおかけしながらの毎日ですが、来年の3月には学業の方は卒業となります。

これからも多くの活動に参加できればと考えています。今後共、よろしくお願い申し上げます。

秀法寺

宮川 証 法



正信会 45 周年 記念旅行 in Okinawa

去る、2004年（平成16年）2月17日（火）より20日（金）の日程で、石垣島・沖縄本島に正信会会員など八名で「正信会四十五周年記念旅行」に行つて参りました。札幌との温度差20度以上という桜の散りかけた暖かい中、沖縄本島から470km離れた石垣島では東シナ海と太平洋望む玉取崎展望台や長さでは世界一の珊瑚の群生をグラスボートで見ることの出来る川平湾などを観光し、沖縄本島では沖縄本土20周年にあたる1992年に復元された首里城などを観光し古（いにしえ）の琉球文化とその歴史を感じました。会員相互の親睦を深めた思い出深い旅行となりました。



ごあいさつ

寺族婦人会会長 長尾 則子

昨年の総会におきまして、任期満了により、新役員が選出され、会長の大役を受けさせていただくこととなりました。不慣れなため、皆様には何かとご迷惑をおかけするとは思いますが、副会長をはじめ役員の皆様のお力添えをいただき微力ではありますが、2年間の任期を和やかに過ごしたく思っております。又、平成16年度は寺族婦人会創立40周年にあたります。ご苦勞された寺族婦人会の方を偲び、先輩方々のご指導の元に、創立40周年に臨みたいと存じます。会員の皆様のご協力の程宜しくお願い致します。



会 長	長 尾 則 子	(福住寺)
副 会 長	藤 田 由 紀 子	(興徳寺)
副 会 長	佐 藤 よ し え	(法城寺)
研 修 部 長	佐 々 木 洋 子	(浄土寺)
親 睦 部 長	高 塚 も も 子	(千正寺)
監 査	横 湯 環 子	(安楽寺)
監 査	打 本 信 子	(大乗寺)

各ブロック長

第1	石 井 紀 子	(信教寺)
第2	坪 井 保 子	(万行寺)
第3	久 朗 津 静 慧	(大念寺)
第4	海 野 敦 子	(覚英寺)
第5	原 宏 子	(敬念寺)

なでしこ会発足一年

二ヶ月に一度の例会も板につき、毎回お互いの近況報告を初め話題に尽きることなく、アツという間の二時間を過ごします。

今年度は例会6回、今年度退会の浄土寺様「報恩講参拝」と自分たちの出来る範囲での活動ができました。

会員数13名で平均出席者数8名。「いい感じ…」と思いながらあせらず、無理せず、「な」なごやかに「で」出会いを大切に、「し」親睦を、「こ」これからも…の気持ちを会員一同心がけて、この会を続けて行けたらと思っております。

これからもご指導よろしく願いいたします。

幹事 千正寺 高塚 もも子

フリーコラム

いのちをモノ化

近年、生命に関わる新しい型の病気が私たちに脅かしています。狂牛病、サーズと不気味な病気が人びとを不安に陥れています。最近では鳥インフルエンザが大きな騒ぎを起こしています。京都では一農場で既に七万羽近くの鶏が、鳥インフルエンザにかかり死んでいると報告されました。大量の鶏が次々に死んでいくのに、この農場は報告もせず、匿名の通報によってようやく事態が明らかにされつつあります。今後、全国に爆発的に拡大することが懸念さ

れています。

私が気になるのは、鶏のことです。「廃棄処分」にするということに、いささかひっかかるのです。狂牛病のときもそうですが、心配なものはすべて「処分」して、人間の安全をはかる何かおかしいのではないかと思うのです。鶏も牛もいのちです。「廃棄」「処分」ということばを素直に呑み込むことができません。いのちをモノ化し、他の動物を人間の道具にしか見ない考えが言わしめることばに思えてなりません。

打本 顕真

書評

ちょっと読んでみようか この一冊



無量寿経ガイド

山口教区基幹運動
推進委員会編

2009年

「無量寿経ガイド」

定価 2000円+税

山口教区基幹運動推進委員会編

発行所 探究社

『蓮師五百回忌法要お待ち受けのため教区の要請により、「蓮如さま」の編集が始まり、平成5年度末に完成しました。これがスタートで、平成6年度には仏教壮年大会の記念として「阿弥陀経ガイド」ができ、平成8年度には仏教婦人大会のご縁で「観無量寿経ガイド」が生まれ、そして今回、皆様のご支援で「無量寿経ガイド」刊行の運びとなり、三部作が揃うことになりました。』とあとがきに書かれているように、無量寿経上、下巻を、現代訳と解説文で構成されている。体裁はA5版、314ページです。

無量寿経を大上段に構えて読むと言うよりはむしろ、写真や挿絵の解説もあり、とても読み易く構成されている。

最近の法座形態の一つに、布教使の話を一方的に聞くだけではなく、連研等の質疑応答を交えて聞法を深める形態に更に、聖典をテキストとして取り上げる法座も多くなって来ている。そのような、カルチャー講座の要素に最適なテキストです。

「阿弥陀経ガイド」「観無量寿経ガイド」「無量寿経ガイド」と同じように気軽に易しく聖典に触れることに適している。

又、一般的に法事に三部経を勤めるお寺が多いと思いますが、「法事で勤められたお勤めの内容はこのような物です」と法事お勤めの解説書としても良いのではないのでしょうか？